

## 佐賀国民スポーツ大会観戦記

10月5日（土）から4日間、佐賀県唐津市文化体育館において、国民スポーツ大会バドミントン競技が開催された。今大会より、名称が国民体育大会から国民スポーツ大会（国スポ）に変わっている。

この国スポにおいて、山口県は少年女子が連覇を、成年女子がベスト8入賞を果たし、天皇杯4位、皇后杯2位という輝かしい成績を上げたので、その大会の様子をお知らせする。

本戦に駒を進めたのは、成年女子、少年男子、少年女子の3種別で、長年連続出場を続けてきた成年男子は、残念ながらブロック予選敗退となった。

少年男子の初戦は、今夏のインターハイで優勝した埼玉県と対戦。ダブルスで柳井商工の木村凌大・立脇悠羽組が、シングルスで桜ヶ丘の河村匠悟選手が善戦したが、力及ばず一回戦敗退となった。3人とも2年生なので、来年の山口インターハイに向けて、よい経験になったと思う。

成年女子はACT SAIKYOの選手で構成。昨年3位のため、第3シードで2回戦からの出場である。対戦相手は新潟県で、ダブルスの齋藤栞・水津優衣組が敗れたが、シングルスで水津愛美選手と齋藤栞選手が勝ち、2対1で勝利した。3回戦は地元佐賀県との対戦で、大応援の中でのゲームとなった。ダブルスの齋藤栞・水津優衣組がファイナルゲームの接戦を制し、続くシングルスで水津愛美選手が勝利し、2対0でベスト8進出を果たした。ベスト4をかけた準々決勝は福島県との対戦。ダブルスの齋藤栞・水津優衣組がファイナルゲームで敗れ、続くシングルスの水津愛美選手も敗れて、0対2で敗退。ベスト4のシード権は逃したものの、ベスト8でポイントを獲得し、来年につながる戦績を残した。11月のS/Jリーグ開幕戦山口大会で雪辱を果たしてほしい。

今夏のインターハイで全国大会8連覇を達成した柳井商工の選手で構成する少年女子は、1回戦で兵庫県、2回戦で福井県に、いずれも2対0で勝利し、準決勝で大阪府と対戦。ダブルスの砂川温香・中原心優組がファイナルゲームを20対15でマッチポイントを取りながら、まさかの逆転負けを喫したが、シングルスで松本紗季選手と砂川選手が勝利し、決勝進出を決めた。決勝戦は昨年準優勝の青森県を倒して勝ち上がってきた埼玉県との対戦。ダブルスの砂川・中原組が、先般の全日本ジュニア・ダブルス3位の榎本紗楓・八嶋未来組にファイナルゲーム18点で勝利。続くトップ・シングルスには、ダブルスに続いて砂川選手が出場した。連続の試合となった砂川選手は、相手エースの高津愛花選手を相手に、ゲーム中



盤から疲れが見えてきたが、最後まで足を止めることなく2対0で勝利し、見事連覇を成し遂げた。

キャプテンとしてチームを牽引する3年生の砂川選手が、ダブルスではペアを組む2年生の中原選手にゲーム中も声をかけ続け、中原選手が後ろでスマッシュを連打、砂川選手が前に飛び込んで決めるというスタイルを終始徹底した。中原選手も準決勝での逆転負けの反省を生かし、最後まで根気強くスマッシュを打ち続けた。シングルの松本選手は1年生ながら飄々と自分のペースでゲームを展開し、全日本ジュニア準優勝の実力を遺憾なく発揮した。砂川選手のシングルスは昨年のかごしま国体、今年のインターハイに引き続き優勝を決める勝利となり、彼女の責任感の強さと、勝利を目指す揺るぎない意志の強さには深く感動した。MVP制度は今回初めて導入されたもので、少年女子の部では、砂川選手が獲得したが、優勝を牽引した活躍を思えば当然であろう。砂川選手の今後の活躍と、後輩たちの来年の山口インターハイでの活躍を期待するとともに、連覇を成し遂げた少年女子に心から拍手を送りたい。

最後に、平素から選手をご支援・ご指導していただいた監督、コーチ、メンタルトレーナー、アスレチックトレーナー、そしてチーム山口スタッフの皆様にご感謝いたします。また、これまでの多大なご支援に加え、大会期間中も力強いご声援をいただきました山口県スポーツ協会の皆様にご心よりお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



令和6年（2024年）10月9日

山口県バドミントン協会 理事長 野村義徳